

# 心の球は いつも純白であれ

盛岡が生んだ球聖  
久慈次郎  
岩手球児の原点は  
ここで育った



盛岡中学校（現盛岡一高）、早稲田大学、函館大洋倶楽部と野球の道を歩み名捕手といわれた久慈次郎。

昭和9年の日米野球大会では全日本軍の捕手兼主将として、ベーブ・ルースやルー・ゲーリックといった伝説的な選手を相手に若き沢村栄治やスタルヒンたちをリードし、野球ファンを魅了しました。

プロ野球チーム大日本東京野球倶楽部（後の東京巨人軍）結成にあたり、破格の待遇で入団を誘われたものの、大火で復旧の目途のつかない函館を離れることができず参加を辞退。その後は、試合中の事故により42歳の若さで死去するまで、アマチュア野球一筋に貢献し続けました。昭和34年に創設された野球殿堂では、正力松太郎や沢村栄治らと並び第1回の殿堂入り選手となりました。現在この居住地跡には、ボールをデザインした記念碑、野球ベンチ、つたの絡まる格子フェンスなどが設置されています。

